

第 20 回圧力設備規格審議委員会議事録

1. 日時：平成 25 年 8 月 28 日（水）13:30～17:00

2. 場所：HPI 会議室

3. 出席者

委員：石毛委員長（IHI）、大原副委員長（千代田）、阿部（NIMS）、磯村（KHK）、
酒井（電中研）、澤（広島大）、辻（東京電機大）、安藤（新日鐵住金）、衣笠（東芝）、
木下（パブコック日立）、寺田（神戸製鋼）、吉田（三井造船）、内野（東京ガス）、
戒田（住友化学）、水上（石連）、松田（三井化学）、村上（日本原電）、門（日揮）、
酒井（東洋エンジ）、中代（IHI 検査計測）、佐藤（発電技研） 以上 21 名

オブザーバー：佐藤（日揮）

原案作成者：小林（沼津高専）、永田（東洋エンジ）、西田（日本バルカー）、黒沢（横河電機）、
近藤（HPI）

事務局：林、田中（HPI）

4. 配布資料 20-

1 第 19 回圧力設備規格審議委員会議事録（案）

2 平成 25、26 年度委員名簿

3-1 HPIS C 109 -1:2013 規格制定についての付議

3-2 HPIS C 109 -1:2013

3-3 第 18 回圧力設備規格審議委員会議事録

3-4 HPIS C 109 -1 漏えい率に基づく管フランジ締結体の設計指針 概要

3-5 HPIS C 109 -1 に対する磯村委員コメント

3-6 HPIS C 109 -1 へのコメントに対する対応

4-1 HPIS Z 108:2013 規格制定についての付議

4-2 HPIS Z 108:2013

4-3 HPIS Z 108:2013 に対する磯村委員コメント

5-1 HPIS F 101:2013 規格制定についての付議

5-2 HPIS F 101:2013

5. 議事

石毛委員長の司会のもと、出席委員数（21 名）が委員会成立の定足数（13 名）を満たしていることが確認され、以下の議事が進められた。

1) 前回議事録の確認

事務局より資料 20-1 に基づき前回議事録案が読み上げられ、原案のとおり承認された。

2) HPIS C 109 -1:2013 漏えい率に基づく管フランジ締結体の設計指針の制定案審議

事務局より資料 3-1 に基づき HPIS C 109 -1 制定の付議について説明の後、資料 3-4,5,6 に
より補足説明があった。

主なコメントは次のとおりである。

- ・「常温」とあるが、誤った使われ方をしない書き方を検討すべきではないか。
- ・「管フランジ」とあるが、「管」をとり、単に「フランジ」と表記すべきではないか。

3) HPIS Z 108:2013 管フランジ締結体用ガスケットの分類及び特性評価指針の制定案審議

事務局より資料 3-1 に基づき HPIS C 109 -1 制定の付議について説明の後、STOP 委員会の小林先生、西田委員から本規格を制定するに至った背景、磯村委員からのコメントへの対応等の補足説明があった。

主なコメントは次のとおりである。

- ・なぜ「指針」としたのか。
- ・附属書がすべて「参考」となっているが、取ってはどうか。
- ・附属書の序文で「一例を示す」となっているが、何でもよいようになってしまう恐れがあるのではないか。

4)HPIS F 101:2013 圧力設備の診断に関する技術者の認証基準の改正案審議

事務局より資料 5-1 に基づき HPIS F 101 改正の付議について説明があった後、認証委員会担当事務局から改正内容の説明があった。

改正箇所に対する主なコメントは次のとおりである。

- ・解 2 ページの表は番号付けすること。
- ・表及び以下の BOK は、5 項とすべきではないか。
- ・解 3 ページ(5)③の鉄系金属材料は鉄鋼材料と、④の非鉄系金属材料は非鉄金属材料とすべきではないか。

なお、今回の改正箇所ではないが、次のコメントがあった。

- ・規格名称について日本語と英語で内容が異なっているのではないか。
- ・8.4 項として、再交付の項目があってしかるべきではないか。

5)今後のスケジュール

- ・原案へのコメントを 9 月中旬までに事務局へ送付
- ・コメントへの対応：11 月中旬まで
- ・その後メールによる審議

以上